授業改善推進プラン＜学年別＞

１年	課題分析	授業改善策
国語	【言語表現】 〇語彙量が少なく、文脈における言葉の意味を適切に理解することが苦手である。 【思考力・判断力の問題点】 〇本文の内容を正しく読み取ることができなかったり、自分の経験と照らし合わせて想像したり考えたりすることが苦手である。	【意味調べや推敲の習慣化】 〇文脈から語句の意味を推察させる練習を授業において計画的に取り入れる。また、文章の推敲等の練習を計画的に取り入れ、適切な表現方法を身に付けさせる。 【発言や小グループでの話し合い活動の機会設定】 〇他者との交流を通して自己の考え方の変容が分かるようにワークシートの形式を工夫し、思考を深めることの楽しさを体感させる。
社会	【「地理・歴史」分野に対する理解度】 〇教科に対する生徒の興味・関心は概ね高いが、内容への理解度が低い生徒も多く見られる。 【知識のアウトプット（表現力）能力】 〇理解はしていても文章や言葉に表現することが苦手な生徒が多く見られる。	【興味・関心を高める視覚的資料教材の活用】 〇ワークシートやWeb教材、ＩＣＴ機器を積極的に活用し小学校の復習や知識の再確認をさせて定着を図る。 【話し合い活動の機会を増やす】 〇グループ内で授業の要点の話し合いの機会を増やし、表現力を養うとともに生徒が主体的に取り組む能力を身に付けさせる。
数学	【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇知識の定着は概ね高いが、思考を問う問題では、どのように課題を解決したらよいか分からない、無回答が見られる。	【思考力・判断力・表現力の育成】 〇文章を式で表す際は、助詞「は」や「が」は、等号「=」で置き換えられるので、文章に慣れる練習をする。手だてが分からない時は、言葉の式、線分図、表を用いることを実践する。 〇 課題に対し、自分の考えをまとめる、それを友達に分かりやすく伝えることで問題解決力、追究力を高める。
理科	【知識の問題点】 〇 重要語句を理解し覚えることが苦手な生徒が多い。 （漢字が書けない生徒を含む。） 【技能の問題点】 〇 実験の際、演示しても真似ができない、理解していない生徒が多い。 【思考・判断・表現の問題点】 〇 考えを文章に書き表すことが苦手な生徒が多い。	【紙媒体による読み書きの反復練習の強化】 〇 補助プリント、理科ノート、教科書ワーク、小テスト等で、読み、 書きを繰り返し行い、習慣化を図る。 【ICT 機器の活用】 〇 演示に加え、実験動画等も活用して、繰り返し確認し、 模倣しやすいよう記憶を充実させる。 【実験プリントの活用】 〇 結果、考察、展開、感想等、しっかりと書き分けられるように、 内容についての説明を徹底していく。
英語	【既習単語・基本的な文法事項の定着】 〇単語の読みはできても実際に書くことが困難な生徒や、文法事項の理解はできても定着できていない生徒が多い。 【自己表現活動】 〇英語を使って自分のことなどを表現しようとする生徒が多い。 【コミュニケーション能力の問題点】 〇英語でコミュニケーションをとったり、他生徒と協力して課題の解決をしたりすることが難しい生徒が少なからず見られる。	【単語力、文法力の向上】 〇単語テストと補習の実施する。単語や文法事項の指導を反復的に行う。 【自己表現活動の継続】 〇自己表現プリントや日々の授業での言語活動（ペアワーク）で活性化を図る。 【コミュニケーション能力の向上】 〇日々の授業で音読やペアワークの機会を多く設ける。インタビューテストや音読テストを適宜行う。 〇日々の授業内で学び合いを毎回行うことで、学習内容についての定着を図るだけでなく、コミュニケーション能力や課題解決力の育成をしていく。
美術	【知識・技能　】 〇材料や用具を、自分の表現したい目標に応じ、工夫して使用しきれていない生徒が多い。 【思考・判断・表現】 〇課題を理解し、自分自身の発想やアイディアを生み出して表現していくのが、得意な生徒と不得意な生徒の差が大きい。	【学習資料の活用】 〇各自の意図に応じて、作品の制作手順を考えながら、見通しをもって作品を完成させるために学習資料を活用する。 【制作シートの活用】 〇課題の理解を深め、思考や発想を制作に結び付ける判断力・表現力を育成していくために、制作シートを個々の生徒の状況に合わせながら活用していく。
音楽	【知識・技能の問題点】 〇音楽用語などの楽譜を読むために必要な知識について苦手意識をもっている生徒が多い。 【思考力・判断力・表現の問題点】 〇鑑賞での感想文では、曲の感想文が書けずに困っている生徒が見られる。	【ワークシートの活用】 〇簡単な問題を繰り返し行って苦手意識を減らし、知識の定着を図る。 〇文例を提示し感想文が書きやすくなるようにワークシートを工夫する。 【話し合い活動の活用】 〇グループで曲の感想を発表する機会を設ける。
保健体育	【知識・技能の能力】 〇学習に対する能力は高いが、全国平均・東京都の平均どちらも体力の平均は低い。 〇「良い動き」を見て真似をすることが苦手な生徒が多い。	【学習資料の活用】 〇いきなり実技の学習を始めるのではなく、種目によっては学習資料で丁寧に説明するなどして、知識を身に付けてから実技に入るなど、学習計画を工夫する。
技術	【材料と加工の技術の問題点】 〇問題の発見から課題の設定まで興味をもって取り組めるようにすることが課題である。また、理解度やものづくりの経験に差があり、工具（道具）の扱い等により作業進度にばらつきが出ている。	【材料と加工の技術の育成】 〇実習時に個別指導の時間を多く取り、丁寧な指導をする。 実習作業に流れを作る。またICT（動画など）を活用し、自ら学ぼうとするよう指導をする。 〇進度に遅れがある生徒や、より発展的な内容を望む生徒に対して、放課後の時間に補充学習を行う。また、授業で使用したスライドなどは、Google classroomに貼り付けて閲覧できるようにしておく。
家庭	【知識・技能の問題点】 〇小学校で学んだ基礎が身に付いていない生徒は、学習特に実技面で手間取ったり遅れを取ったりすることが多い。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇家庭の仕事に興味をもち、日頃から家事に接するなどしていないとなかなか自分の事として捉えることが難しい。実技ではアレンジに個性を出す事を目標としてるがアイデアが画一的になりやすい。	【あらためて基礎を身に付ける】 〇基礎からの丁寧な説明を心掛ける。実技では実習時に個別の声掛けや指導をする。 【思考力・判断力・表現力の育成】 〇日頃から家庭の仕事を観察、体験をするよう促す。実技ではいろいろな表現方法や技能があることを調べることから、自分のアレンジに生かすよう導く。